

日時：令和4年10月5日（水）10:00～12:00

場所：市民防災研修室1・2

出席者：■委員：竹田啓委員、迎田浩昭委員、河村一郎委員、安達英一委員、大竹仁委員、久保道典委員、竹田幸子委員、加藤俊昭委員、大津公彦委員、平吹登委員

■事務局：土屋正人(教育長)、鈴木千鶴子(観光文化交流課補佐)、吉川幸代(地域づくり推進課生涯学習推進室長)、新野弘明(地域づくり推進課長)、武田誠広(地域づくり推進課生涯学習推進室係長)、黒澤美紀(学校教育課指導主査兼指導主事)、今野朋代(健康スポーツ課係長)

協 議

(1) 長井市の社会教育について

事務局：資料を基に説明。

委員：現在6次総を作成中だと思うが、4・5次総の中に社会教育の部分が見受けられなかったのので6次総には社会教育を入れて頂きたい。

教育長：本来は5次総の中に教育委員会の分野として社会教育を入れる必要があった。しかし長井市では分野ごとの切り分け方が分かりにくい部分があったと思う。また正直に申し上げると、社会教育についての位置づけが弱かったと感じている。今回新たに6次総と同時進行で、教育振興計画が動いている。これについて6次総の中に「教育の大綱」という項目があり、市長が示さなければならないものだが、5次総に入っていなかったの今回はこれらの反省を踏まえて6次総の中に「教育の大綱」を示そうと考えているので自ずと社会教育についても入ってくるだろう。

(2) 令和3年度長井市生涯学習分野における重点施策の取り組み内容等と評価について

(3) 令和4年度長井市教育委員会（生涯学習分野）取り組みの重点について

事務局：資料を基に説明。

委員：子育て講座は小学校で積極的に行っている。大変ありがたい事業ですので継続していただきありがたいと思っている。

委員：育みネットについては、昨年度からコロナ対応の実施ガイドラインを制定。現在はガイドラインに照らし合わせて実施が出来ない。今年度はまだ一度も実施できていない状況。

委員：地域学校協働活動推進員については、どこまで学校側の仕事に関わるかは各学校によって違うと思う、各学校の推進員が様々な違う仕事をしているより、同じ働き方をした方が働き方が良い。

委員：青少年健全育成偉業として、特に少年議会については、コロナによりここ数年は代替事業を行ってきた。中学校からは、もっと幅広く子どもたちに長井市の現状を知ってほしいという要望もある。しかし学校の先生方への負担などの観点から、もう

一度少年議会について見直し議論した結果、今まで行ってきた少年議会をもっと幅広い多くの中高生の皆さんに長井市の現状を知ってもらい、これからどんな長井市を展望していくのかを考えてもらう機会にしたいと考えている。市としても第6次総の計画・立案の参考になる部分があるのではないかと。流れとしては、例年通り各小中学校で市長講話を行い、そこで感じたことを集約しグループワークを行い、議場で発表する。そして、第6次総の参考にしていただく、という流れにするため準備を行っている。今年が第1回目になるので、改善点なども多々見つかると思うが、以上の流れで進めていきたい。これらについては、市長や各小中学校の校長先生や教頭先生にご説明し理解いただいている。

事務局：補足すると、7月頃に説明をして大枠は理解していただいた。名称が「少年議会」から「少年会議」に変わるため様々変更点もあり至らない部分は精査しなければいけないと思うが、今年度の準備の段階でしっかり見ていく。

次に少年活動発表会について。例年、生涯学習プラザで発表してもらっていたが今年度は、2年間コロナ禍で開催できなかったということもあり、形を変えてネット配信を計画している。各小中学校の活動を撮影しその動画を集約し、ギガスクール構想により1人1台タブレットを持っているので多くの人に見てもらえるようにしたい。

委員：経過については委員からあった通りで、私のその場に2年間携わらせていただいた。その中の、「時代を開く青少年の育成」の“時代を開く”という文言が市長の今後の施策や長井市の未来像をお聞きする中で中高生は目を輝かせて自分たちの住んでいる長井市の将来について、積極的に関わりたいという意見が数多くあった。正しく、「時代を開く」とはこのことだと思った。その中でも様々な発案はあると思うので、可能かどうかは別として、6次総に反映させてほしい。

委員：市長講話と少年会議は大変意味のあるものだと思う。授業等では長井市のことに触れているものの、市長から直接、市のビジョンを聞ける。そして少年会議では自分たちで意見を出し合ったものを発表する場があるという機会は中々無く限られているので、貴重なものだと思う。また、事務局から説明あったが、オンラインが充実しているのに事業が中止になっているのは残念だと思っていたので、オンラインでも検討しているという話を聞くことができてよかった。2つの事業については今後も学校を交えて実施してほしい。

委員：勤労青少年ホームは先ほど話があったように令和3年度をもって廃止した。創設時は1500名の登録者がいたが近年は30名ほどになり若者がほとんどいなくなった。もうひとつは、勤労青少年ホームとコミュニティセンターは縦割りになっており予算運用が全く違う。勤労青少年ホームを運営していたのは臨時の職員2名しかおらず、発展的な数ではないため全てコミュニティセンターで一括した方が良いのではないかとということになった。事業の継続については、サークルに登録していた人は今も活動している。講座や教室も充実させた。若者たちのため、ということが課題だと思う。若者は組織に入るのを嫌がるが、バレーやバスケットなどのスポーツを体育館で行ったり音楽室を使ったりして自主的に活動できる場を増やすことで地域に

出てくるような若者を増やしたい。そして、青少年ホームとしての役割を引き継いでいきたい。

委員：以前は近所の子どもたちは外に遊びに出ていたが、最近の子どもの数が減少しているため地域の子どもたちが見えなくなっている。これだけの自然環境が豊かで子ども達が生き生きと過ごせる環境や昔の遊びなどがあるが、今の子ども達は家の中の遊びが多く、虫が触れなかつたりみみずが持てなかつたりする子どもが多いので自然体験をもっとさせていきたい。様々な形で長井に来る若者や住んでいる子どもたちに対して長井市のよさを伝え、長井市に住みたい子育てしたいと思ってほしい。また、学校と地域が支え合って子どもたちを育てていきたい。

委員：土曜らんど事業について、事業開始と現在では子どもたちや保護者の環境や状況は変わっている。土曜らんどの始まりは、子ども達の土曜日が休みになったので地域の手助けを経て過ごす、という目的だったので当時は地域の方の協力もかなりあったようだが、現在は参加を募っても土曜日はスポ少などで忙しく、協力してくれる団体も減ってきている状況、今後どのように事業を続けていくのか考えてほしい。

(4) 長井市立図書館指定管理者の事業評価

事務局：資料を基に説明。

委員長：山形にも最新の施設が完成したが、使用できるのは市民のみ。見学は市民以外でも出来るらしいので、ぜひみなさんにも最新の施設を肌で感じてほしい。また、施設に関しての感じ方は人それぞれではないか。

委員：本に親しみは無いのだが、現在図書館で業務されている方は新図書館になっても継続して雇用されるのか。

事務局：指定管理者の方と調整するが、基本的には現在勤務している方は継続して勤務していただく予定。

委員長：図書館の蔵書数については大体、米沢図書館（ナセ ba）と同じくらいと記憶している。

事務局：ナセ ba は閉架書庫の方が多く 20 万冊ほどあると思う。総数については把握していないので開架書庫と閉架書庫のバランスについては分かっていない。

教育長：ナセ ba については、資料館という意味合いが強い。米沢の上杉に関するものも多くあり趣は若干違ってくると思う。冊数で比較するより施設内の体感で比較していただきたい。

(5) その他

・意見交換 委員より発言

委員：資料を基に説明。

教育長：基本的な考え方として、まず継続的な話合いについては定例教育委員会を月に 1 回、4 つの課（教育委員会、地域づくり推進課、観光文化交流課、健康スポーツ課）が集まり情報交換を行っていることを理解いただきたい。次に残りの 2 つの発言については、教育基本法の第 3 条に生涯学習の位置づけがなされているが、教育基本法の一番の特徴は、個別の資質を向上させるためということであり戦後進めてきたも

のだと思う。挨拶の時にも話をしたが、行政はあくまで個別の学びの意欲を後押しする役目であり上から網掛けをかけるようなものではないと個人的に思っている。以上から生涯学習の在り方を検討していきたい。それから今回の法改正について、大きな問題は少子高齢化だと思っている。個々の学びを保障するにしても教育委員会の範疇だけではなく、地域ぐるみとして色々な関わりを持ちながらそれらを豊かにしたいという一つの思いがある。様々な意見を集約していくのが長井市という小さな桁の中での行政の役割であり皆さんにお願いしていることである。今回いただいたものは大事な意見として受け止める。